

「経営理念」を考える・その2

企業経営漫談士 岡野実空

「経営理念」の前半は、その見直しの必要性を取り上げましたが、後半では、そのための視点や行動を考えます。

その要素は、先のシリーズで大きな反響のあった、故平尾誠二氏のいう“MVP”(Mission、Vision、Passion)に、具体的な“A”(Action)を加えたもの。いまの急激な環境変化に立ちすくむ上司や先輩たちを横目に、皆さんはブルペンで着々と肩を作りましょう。間もなく、登板の声がかかります。



其の3: 『事業三観』

「経営理念」を考える基礎としての『事業三観』。それは、時間軸に基づく『歴史観』、空間軸による『世界観』、そしてすべての人々に対する『人間観』の3つです。またそれらを総合し、組織が関わる『事業』の方向性を決めるのが「ミッション」、その具体的な到達イメージが「ビジョン」、実現への本気度が「パッション」です。そのため企業人には、「歴史」「地理」「哲学」の基礎教養の修得と、その継続的な学習が求められます。

またその上で、個々人の専門性に、『事業三観』に基づいた固有の『補助線』が引かれれば、鬼に金棒！その中でも、実務を通じて培われる組織横断的な見識(知財、ICT、ロジスティクスなど)は、企業にとって特に貴重なものであり、学歴エリートの浅薄な知識など敵ではありません。

さてこのシリーズ冒頭の四字熟語は、『諸業無常』でした。それは恐れ多くも、釈尊末期の一句の前半、万物は移ろうものという「諸行無常」の無断転用。この際、再度そのご慈悲にすがり、後半の「精進弁道」(だからこそいまを無駄にせず、心して修行に励め)もお借りすることになります。それはまさしく、個々人の『精進勉道』。それは以上で述べたように、『事業三観』を総合した『補助線』という固有の見識で補強された専門性を、皆さんが怠りなく磨き続けることに他なりません。

最後に釈尊の入寂を偲び、静かにご唱和を！「諸業無常 精進勉道」『諸業無常 精進勉道』!! 合掌!!

(ところで、あなたの『道』とは何ですか?)

其の4: 『明示維新』

後世の人が名付けた「明治維新」。当時、多くの人々は「ご一新」と呼んだそうですが、急激な改革に伴い、世の中は大混乱。口の悪い人はレ点を打って、「明治」を「治まる明(めい)」と読んだとか。

さて今回の『明示維新』は、その「改革」に伴う無用の混乱を防ぐ具体的な手立てのこと。すなわち、何とかの一つ覚えのように「改革」を叫ぶだけでなく、『維』持する、あるいは革『新』すべきことをきちんと分別し、組織の長が関係者に予め『明示』することに他なりません。しかし現実には、大きな組織ほど、その「意識」(MVP) 転換は困難。そんなときはまず、評価を絡めて個々人の「行動」(A) が変わるように仕向け、その積み重ねを通じて、組織的な「意識」転換を図る方が妥当です。

実際、優れたトップほど、その事前の分別(ぶんべつ)が見事。例えば、前シリーズのコラムに最も頻繁にご登場いただいた廣田正氏(元菱食、現三菱食品)の場合、その経営論をテーマごとに5回、合計10時間も幹部に語り終えた後の、それに対する総括質問への返答は、さらりと「我が社の使命以外は、変えてもらって構いません」でした。

ところで仏教語の「分別」(ぶんべつ)は本来、いまの「無分別」を意味し、「善し悪し」など、私たち凡人の判断の危うさに警鐘を鳴らす言葉。そのために仏道の「修行」を重ねることを見習い、私たちが日々、実業の「修業」に励みましょう。その目的は、適切な『明示維新』への準備と反省です。

2020年3月9日 実空